



### 警告

安全にご使用頂くために  
最後までよくお読み下さい。

#### 1. ご使用前に

ピストンロッドの取手にぐらつきが発生している場合は、ピストン部が飛び出す恐れがありますので、ご使用しないでください。

ピストンロッドを交換してから、ご使用下さい。

#### 2. 準備中はカブラの連結を外す

コーキング材の充填、洗浄、分解等の作業は、必ずカブラの連結を外して下さい。

#### 3. エアホース

空気圧力用、耐圧 2Mpa (20Kgf/cm<sup>2</sup>) 以上のもをお使い下さい。  
定期的に老化を点検し、異常が認められた時は新しい物と交換して下さい。

#### 4. エアホースの接続

接続金具、ホース止め金具は強靱な物を用い、エアが漏れないように締付けて下さい。

#### 5. エアの圧力

0.6MPa (約6Kgf/cm<sup>2</sup>) 以下の圧力で使用して下さい。

#### 6. エアの開通

レバーに指や、物が触れていない事を確認した後に行ってください。

#### 7. レバーの操作

必ずフロントキャップを確実に取り付けて安全を確認の上、レバーを引いて下さい。  
**人には絶対に向けないで下さい。**

万が一、フロントキャップを外した状態でレバーを引く時は、ピストンロッドとハンドル間に手が挟まれたり、体がピストンロッドに触れない様に、ご注意ください。

#### 8. 保護具の着用

作業時は必ず保護メガネを着用して下さい。

#### 9. 保守、点検

ネジの焼付け防止の為、シリンダーを取付けの際はネジ部にグリスを塗布して下さい。

#### 10. 保管

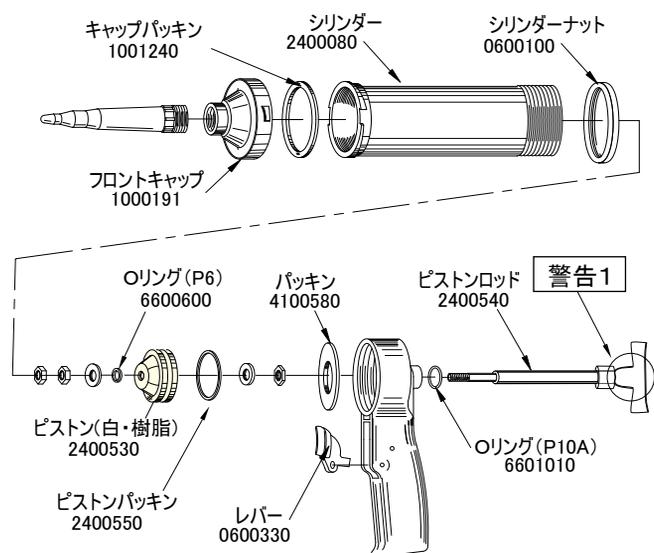
カブラの連結を外し、湿度が低く、関係者以外の手の届かない所に保管して下さい。

#### 11. 分解、調整

ハンドル部の分解、調整についてはメーカーにお申し付け下さい。  
尚、減圧弁を取り外される時は、ハンドル下部のネジ(黒)が一緒に外れ、ハンドル内部の部品が散乱する恐れがありますのでご注意ください。

#### 《分解図》

※ ハンドル部の内部部品についてはメーカーへお問合せ下さい。



この度は当社の製品をお買い上げ頂き誠にありがとうございます。

#### 《用途》

缶入りシーリング材等の  
吸込み射出作業

その他の使用は厳禁!!

#### 《仕様》

型式	容量 ml	シリンダー		全長 mm	質量 kg	使用圧力 Mpa	エアホース 内径mm	ホース取付 口金.Rc
		内径mm	長さmm					
YPG-55S	550	51	295	390	1.2	max.0.6	6.3	1/4

#### 付属品

減圧弁、ニップル(減圧弁組付)、カブラプラグ 20PM(減圧弁組付)  
ノズル: ストレート(鉄製)1本、コーン(樹脂)5本、黒ツブシ(樹脂)1本  
メンテグリス



コーン(樹脂)  
1000390



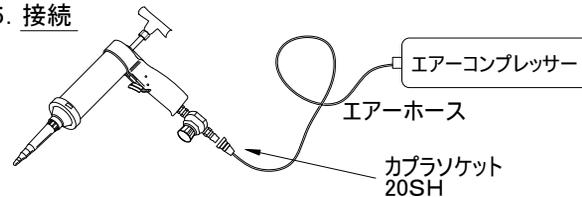
ストレートノズル(鉄製)  
1000440



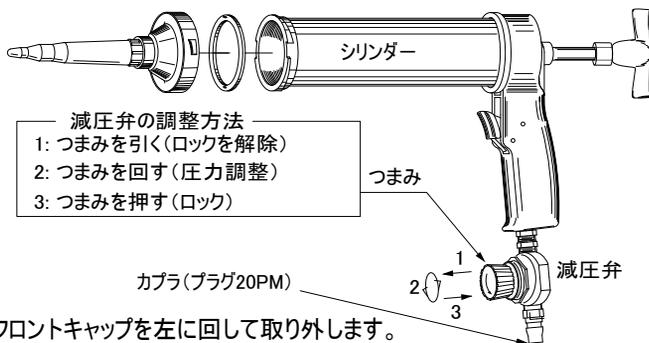
黒ツブシ(樹脂)  
1000450

#### 《準備》

1. エアコンプレッサー 使用圧力 =  $M_{max} \times 0.6 \text{ Mpa}$   
流量 = 毎分射出量 × (使用圧力 + 1) × 毎分レバー回数
2. エアホース 耐圧 2MPa 以上 内径 6.3mm
3. 市販のカブラ用ソケット 20SH をご用意下さい。
4. ノズルのセット (コーンは適当な位置でカット)  
フロントキャップにねじ込みます。
5. 接続



#### 《使用方法》



1. フロントキャップを左に回して取り外します。
2. ピストンロッドを一杯に押し込みます。
3. シリンダーの先をコーキング材の中に突っ込みそのままシリンダーを持ってピストンロッドを引くと材料が入ります。(右図)
4. シリンダーの外面に着いた材料を拭き取ります。
5. フロントキャップを装着します。
6. カブラを連結します。
7. レバーを引くと射出します。レバーは一杯に引いて下さい。  
途中で止めると排気口よりエアが漏れます。
8. 射出速度を調節します。  
減圧弁のつまみを引き、右に回すと早く、左に回すと遅くなります。  
調整後はつまみを押してロックします。
9. 作業中はハンドルを回転させないでください。  
(シリンダーが外れなくなる恐れがあります。)
10. 射出終了後はカブラの連結を外します。
11. 作業終了後はカブラの連結を外してガンの汚れた部分を清掃して下さい。
12. ピストンパッキンの摩耗等により、材料がピストン部の裏側に多く漏れるようになると、ハンドル部内に材料が侵入する恐れがあります。作業後のガン本体洗浄の後に、シリンダーを外した状態で、エアの空吹きを数回行って下さい。ハンドル内部に材料が侵入すると故障の原因となりますので、ピストンパッキン、オリング等の早めの交換が薦められます。  
シリンダー取付けの際はネジ部にグリスを塗布して下さい。